

平成 30 年度千葉県臨床検査技師会血液検査サーベイ中間報告

平成 30 年度千臨技サーベイの血算部門・血液像部門の中間報告を作製いたしました。中間報告の為、後日報告されます報告書とは結果が異なる場合もありますことをご了承ください。

この報告を各施設で有効活用して頂けると幸いです。

2018 年 12 月 25 日

血液検査研究班 仙波利寿

【精度管理担当者】

千葉県救急医療センター 長津 知嗣
 順天堂大学医学部附属浦安病院 澤田 朝寛
 船橋市立医療センター 福田 幸広
 亀田総合病院 本井 貴子
 旭中央病院 佐藤 文美
 千葉市立青葉病院 中村 仁美
 千葉医療センター 小林 沙織
 順天堂大学医学部附属浦安病院 森本 愛
 成田赤十字病院 笹尾 祐太
 君津中央病院 淵上 司
 千葉大学医学部付属病院 仙波 利寿

■血算部門

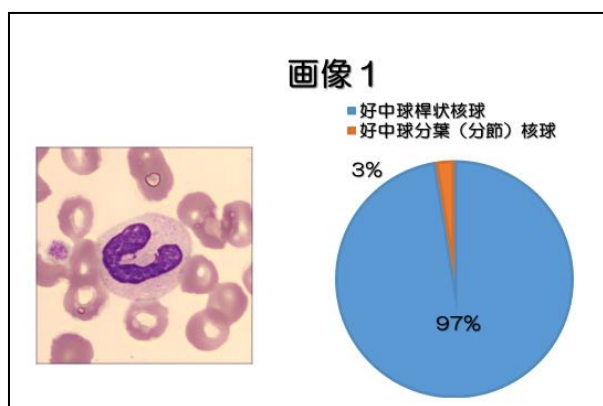
項目	全測定件数					±3SD 2回切断後						
	試料	件数	平均	SD	CV	件数	平均	SD	CV	最大値	最小値	除外件数
白血球 ($\times 10^9/L$)	A	135	5.3	0.14	2.6	134	5.3	0.14	2.6	5.6	4.9	1
	B	135	4.3	0.11	2.7	134	4.3	0.11	2.6	4.5	4.0	1
赤血球 ($\times 10^{12}/L$)	A	135	4.50	0.08	1.7	129	4.51	0.06	1.2	4.69	4.32	6
	B	135	3.56	0.05	1.5	131	3.56	0.04	1.2	3.68	3.46	4
ヘモグロビン濃度 (g/dL)	A	135	13.1	0.17	1.3	132	13.1	0.14	1.1	13.5	12.7	3
	B	135	10.3	0.13	1.3	134	10.3	0.12	1.2	10.7	10.0	1
ヘマトクリット (%)	A	135	38.4	0.96	2.5	134	38.5	0.82	2.1	40.9	36.9	1
	B	135	30.3	0.62	2.1	135	30.3	0.62	2.1	32.2	29.0	0
MCV (fL)	A	135	85.4	1.50	1.8	129	85.2	1.09	1.3	88.3	82.3	6
	B	135	85.1	1.36	1.6	131	84.9	1.15	1.4	88.6	82.3	4
PLT ($\times 10^9/L$)	A	135	248	42.65	17.2	132	245	10.18	4.2	273	216	3
	B	135	227	9.60	4.2	132	228	8.6	3.8	245	204	3

表 1. 全機種による CBC の集計

■血像部門

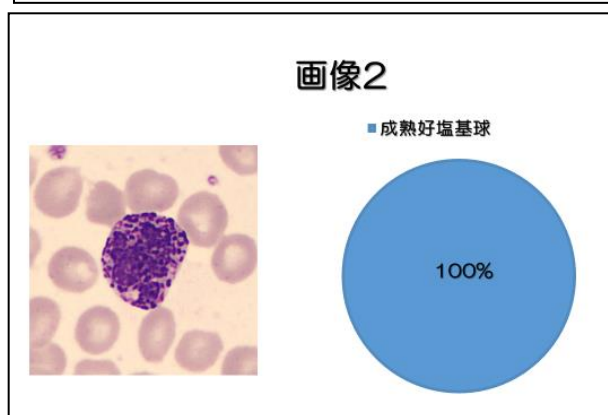
【サーベイ検査結果と解説】

画像 1～10 は正常末梢血のライト・ギムザ染色です。
画像 11、12 は患者末梢血のライト・ギムザ染色です。
画像 13、14 は患者末梢血のメイ・ギムザ染色です。



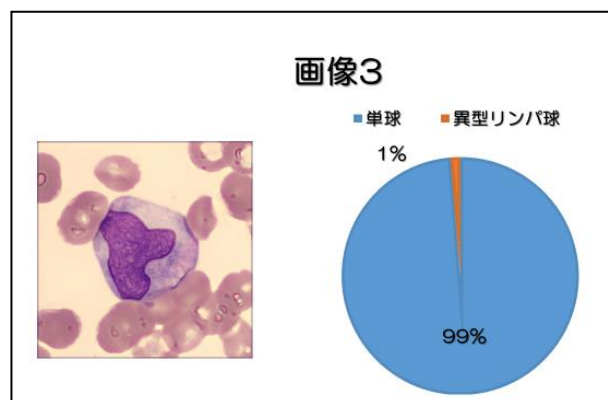
設問 1 (画像 1) :

好中球桿状核球 97%、好中球分葉(分節)核球 3%という結果となりました。



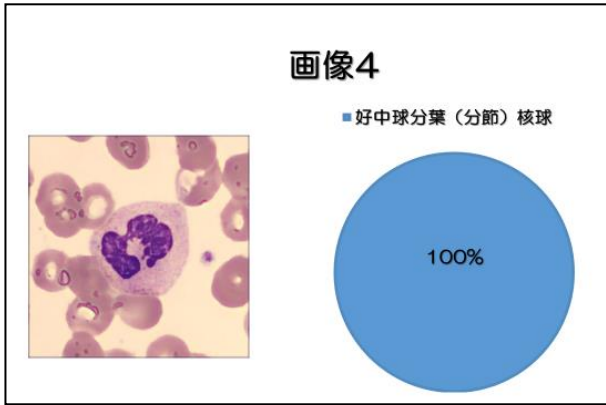
設問 2 (画像 2) :

成熟好塩基球 100%となりました。



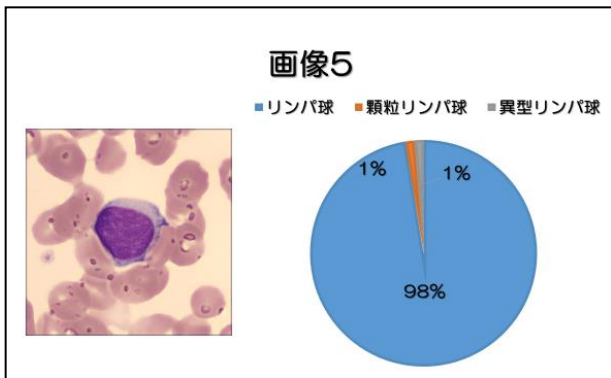
設問 3 (画像 3) :

単球 99%、異型リンパ球 1%という結果となりました。



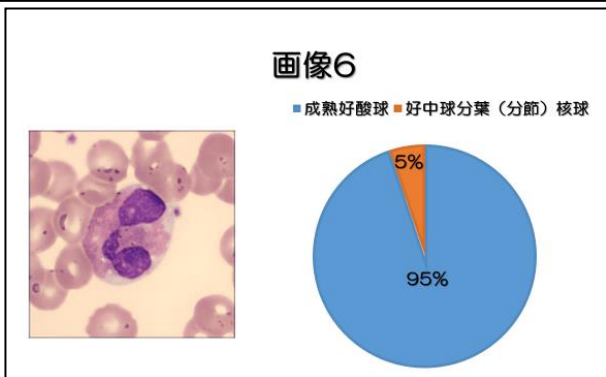
設問4 (画像4) :

好中球分葉(分節)核球 100%という結果となりました。



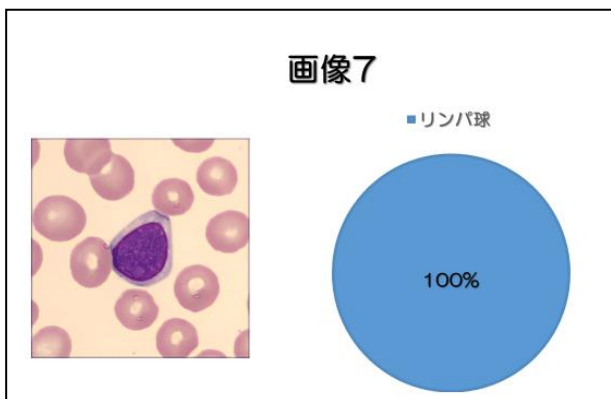
設問5 (画像5) :

リンパ球 98%、顆粒リンパ球 1%、異型リンパ球 1%という結果となりました。



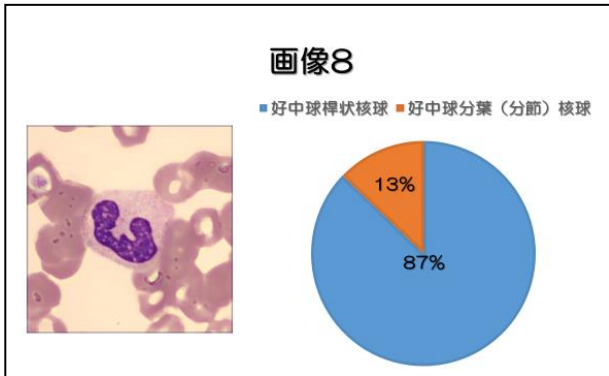
設問6 (画像6) :

成熟好酸球 95%、好中球分葉(分節)核球 5%という結果となりました。



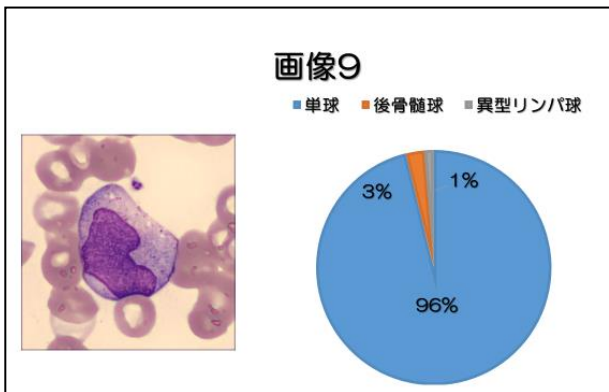
設問7 (画像7) :

リンパ球 100%という結果となりました。



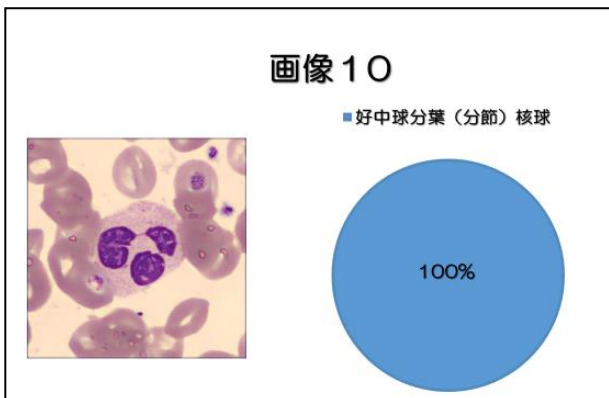
設問 8 (画像 8) :

好中球桿状核球 87%、好中球分葉(分節)核球 13%という結果となりました。



設問 9 (画像 9) :

単球 96%、後骨髓球 3%、異型リンパ球 1%という結果となりました。



設問 10 (画像 10) :

好中球分葉(分節)核球 100%という結果となりました。

【画像11 参考データ】

20 歳代 女性

2 週間前より頸部リンパ節腫脹、咽頭痛、39℃の発熱で近医受診。

血液検査で異常を認めたため血液内科紹介となる。

血算データ

WBC $12.5 \times 10^9/L$ (3.6~8.8)、RBC $4.65 \times 10^{12}/L$ (3.77~5.55)、

Hb 13.1g/dL (12.5~17.3)、Ht 42.2% (37.1~50.7)、PLT $178 \times 10^9/L$ (150~350)

血液像データ (分析装置データ)

好中球 15.5%、好酸球 0.4%、好塩基球 0.1%、単球 7.8%、リンパ球 76.2%
生化学データ

AST 762U/L (13~33)、ALT 1397U/L (8~42)、LD 842U/L (119~229)、

ALP 1192U/L (115~359)、TP 7.6g/dL (6.5~8.5)、

アルブミン 3.9g/dL (3.9~4.9)、Ca 11.3mg/dL (8.6~10.1)、

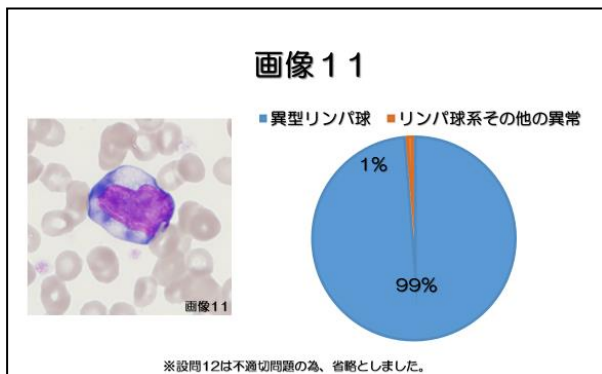
T-Bil 2.2mg/dL (0.2~1.3)、CRP 0.7mg/dL (0.3 以下)

その他検査結果

EBV 抗 VCA-IgM 抗体 40 倍

EBV 抗 VCA-IgG 抗体 80 倍

EBV 抗 EBNA-IgG 抗体 0.5 未満



設問 11 (画像 11) :

異型リンパ球 99%、リンパ球系その他の異常 1%、という結果となりました。

設問 12 :

※不適切問題といたしました。

画像 13~14 患者背景】

80歳代男性。自己免疫性肝硬変がありフォロー中。半年前より息切れを自覚し、近医で血液検査を受けた際、汎血球減少を認め、血液内科紹介となる。

血算データ

WBC $2.8 \times 10^9/L$ (3.6~8.8)、RBC $2.32 \times 10^{12}/L$ (3.77~5.55)、

Hb 7.2g/dL (12.5~17.3)、Ht 23.9% (37.1~50.7)、PLT $67 \times 10^9/L$ (150~350)

血液像データ (分析装置データ)

好中球 34.5%、好酸球 1.5%、好塩基球 4.0%、単球 15.5%、リンパ球 37.0%

芽球様細胞 3.0%、骨髄球 1.5%、後骨髄球 2.0%、異型リンパ球 1.0%

赤血球、白血球、血小板 3 系統で 10%以上の形態異常あり

生化学データ

AST 31U/L (13~33)、ALT 24U/L (8~42)、LD 315U/L (119~229)、

TP 6.7g/dL (6.5~8.5)、アルブミン 2.8g/dL (3.9~4.9)、

ALP 286U/L (115~359)、CRP 3.5mg/dL (0.3 以下)

骨髄データ

ANC $6.5 \times 10^4/\mu l$ 、MgK $16/\mu l$

赤芽球系、顆粒球系、巨核球系に 10%以上の異形成あり、

芽球比率 8%(アウエル小体—)

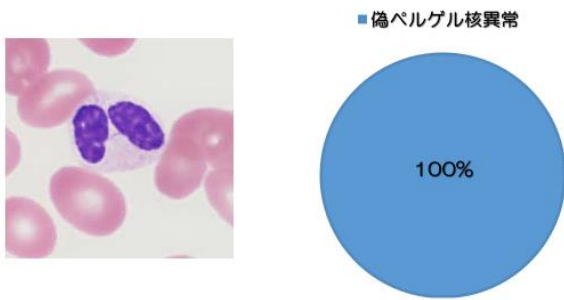
FCM データ

CD13、CD33、CD34、CD117、HLA-DR 陽性

染色体データ

-7q, t(11 ; 16)(q23 ; p13.3), t(1 ; 3)(q36.3 ; q21.2)

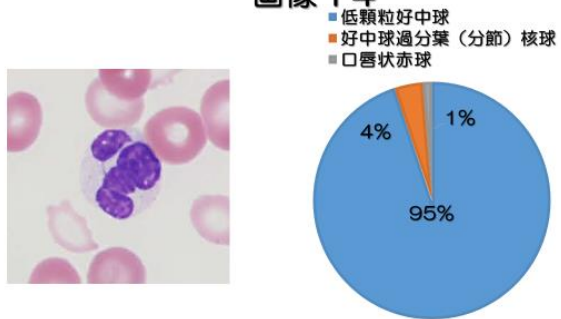
画像13



設問 13 (画像 13)

偽ペルゲル核異常 100%、という結果となりました。

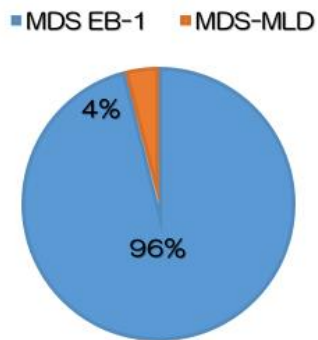
画像14



設問 14 (画像 14)

低顆粒好中球 95%、好中球分葉(分節)核球 4%、口唇赤血球 1%という結果となりました。

設問 15



設問 15

MDS-EB-1 96%、MDS-MLD 4%という結果となりました。